

海外安全対策情報（令和7年度第2四半期）

1 社会・治安情勢

- (1) パラナ州公安局発表による犯罪資料報告によると、パラナ州における2024年の殺人事件の発生件数は、1,620件（前年比15.7%減）。クリチバ市における2024年の殺人件数は、173件（前年比17.6%減）。クリチバ市の人口10万人あたりの殺人件数は、9.75件であり、日本の0.73件を大きく上回る。
- (2) パラナ州における2024年の麻薬の密輸・密売件数は、13,389件（前年比9.1%増）、麻薬の所持・使用等犯罪件数は、14,254件（前年比6.7%増）と麻薬に関わる犯罪が増加傾向にある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) クリチバ市を含む大クリチバ圏においては、銀行、住居、店舗及びレストラン等を狙った武装強盗のほか、車両強盗や長距離及び路線バスに対する強盗事件が昼夜問わず発生している。
- (2) パラナ州はパラグアイ国境からブラジルに流入する大量の麻薬（大麻、クラック、オキシィ等）及び銃器類の密輸入ルートとなっており、密輸組織絡みの殺人事件が頻発している。
- (3) クリチバ市内においては、銀行で現金を引き出した者を狙った強盗が頻発しているため、必要以上の現金を引き出さない等の注意が必要。

3 犯罪事例（令和7年度第2四半期）

- (1) 7月8日夜、クリチバ市セントロ地区（Centro）プレフェイト・ジョアン・モレイラ・ガルセス通り（Rua Prefeito Joao Moreira Garcez、在クリチバ日本国総領事館から約1キロメートル）で34歳の男性が拳銃で射殺される事件が発生しました。犯人は逃げる被害者を追いかけながら発砲し、流れ弾が周辺の建物や通行車両に当たりましたが、通行人の被害は確認されていません。被害者は十発以上の銃弾を受け、現場で死亡しました。被害者には、過去に麻薬密売や窃盗強盗などの犯罪歴があり、最近刑務所を出所していました。なお、本事件の数時間前にも、ヒアシュエロ通り（Rua Riachuelo）とアウフレド・ブフレン通り（Rua Alfredo Bufren）の交差点付近で銃撃事件が発生しました。

- (2) 8月6日朝、クリチバ市セントロ地区 (Centro) ルイ・バルボザ広場 (Praça Rui Barbosa、在クリチバ日本国総領事館から約1キロメートル) で、44歳の男が被害者を刃物で襲い重傷を負わせる傷害事件が発生しました。男は事件の前に被害者とアルコールを摂取し、口論の末、犯行に及んだとみられています。男は事件後逃走しましたが、クリチバ市グアイラ地区 (Guaira) で発見され、殺人未遂の容疑で逮捕されました。逮捕された男は、電子足枷による監視対象者で、2019年に同地区で刃物を使用した殺人未遂容疑、その他強盗や窃盗の容疑で逮捕歴がありました。
- (3) 8月21日朝、クリチバ市セントロ地区 (Centro) バラウン・ド・セホ・アズウ通り (Rua Barão do Serro Azul) の大聖堂 (Catedral Basílica Menor de Nossa Senhora da Luz dos Pinhais、在クリチバ日本国総領事館から約1キロメートル) の付近で、25歳の女性が刃物で背中を刺される傷害事件が発生しました。通行人の被害は確認されていません。
- (4) 9月1日午前、クリチバ市セントロ地区 (Centro) チラデンテス広場 (Praça Tiradentes、在クリチバ日本国総領事館から約1キロメートル) で31歳の男性が刃物で複数回刺される傷害事件が発生しました。被害者の男性は、重傷を負い病院に搬送されました。通行人の被害は確認されていません。